

## 第38回理事会、第13回評議員会を開催しました

当財団「第38回理事会」を6月7日、「第13回評議員会」を6月22日、帝国ホテルを会場にリアル会議とオンラインによるハイブリッド形式で開催しました。

「第38回理事会」の議案は「2021年度事業および決算報告の件」「任期満了に伴う資産運用委員選任の件」「任期満了に伴う事業助成審査委員選任の件」「出版助成の件」の4件で、すべて原

案どおり承認されました。

「第13回評議員会」の議案は「2021年度事業および決算報告の件」「『定款』改定の件」の2件で、いずれも原案どおり承認されました。

**貸借対照表**  
2022年3月31日現在

科目	金額 (単位:千円)
<b>I 資産の部</b>	
1. 流動資産	447,485
2. 固定資産	
(1) 基本財産	27,709,134
(2) 特定資産	11,155,387
(3) その他固定資産	256,932
資産合計	39,568,940
<b>II 負債の部</b>	
1. 流動負債	59,155
2. 固定負債	66,689
負債合計	125,844
<b>III 正味財産の部</b>	
1. 指定正味財産	37,070,771
2. 一般正味財産	2,372,323
正味財産合計	39,443,095
負債及び正味財産合計	39,568,940

**正味財産増減計算書**

2021年4月1日から2022年3月31日まで

科目	金額 (単位:千円)
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	612,206
特定資産運用益	52,784
受取寄付金	67,374
雑収益	1,663
経常収益計	734,030
(2) 経常費用	
事業費	535,232
管理費	86,472
経常費用計	621,704
評価損益等調整前当期経常増減額	112,325
評価損益等計	△73,965
当期経常増減額	38,359
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	1
当期経常外増減額	△1
当期一般正味財産増減額	38,359
一般正味財産期首残高	2,333,964
一般正味財産期末残高	2,372,323
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
基本財産運用益	594,887
特定資産運用益	153,389
特定資産売却償還益	0
基本財産評価損益等	7,349,254
特定資産評価損益等	147,790
一般正味財産への振替額	715,047
当期指定正味財産増減額	7,530,274
指定正味財産期首残高	29,540,497
指定正味財産期末残高	37,070,771
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>39,443,095</b>

# 2021年度助成研究集の刊行

当財団は、平成2021年度(第55次)の助成研究成果の要旨をまとめた『助成研究集(要旨)』を刊行しました。収載されている研究テーマ等は以下のとおりです。

助成研究成果のフルレポートは当財団の広告図書館内で、また概要は同図書館ホームページから検索・閲覧いただくことができます。なお、本誌のPDF版は、当財団のホームページ上でご覧いただけます。



## 2021年度(55次)助成成果一覧

### 【常勤研究者の部】

代表者氏名	代表者現職	研究テーマ
永井 晓行 他1名	金沢星稜大学 教養教育部 准教授	“ウィズコロナ・ポストコロナ時代”の友人関係における ソーシャルメディアの機能
【継続研究】 新藤 浩伸	東京大学大学院 教育学研究科 准教授	1960年代以降の日本におけるメディア・イベントおよび その空間の機能に関する研究
【継続研究】 鶴見 裕之 他1名	横浜国立大学 国際社会科学研究院 教授	消費者のモビリティと モバイルアプリ・コミュニケーション
広田 すみれ 他1名	東京都市大学大学院 環境情報学研究科 教授	演劇等の配信コミュニケーションでの参加型の場の作り方と 視聴者の認知や関係性の分析
【継続研究】 水野 誠 他1名	明治大学 商学部 教授	消費者間コミュニケーション構造に関する計算社会科学的研究
【継続研究】 渡部 諭	秋田県立大学 総合科学教育研究センター 教授	デジタルナッジが高齢者の選択行動に与える効果に関する パラデータ分析による検討

### 【大学院生の部】

代表者氏名	代表者現職	研究テーマ
石橋 敬介	筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 博士後期課程修了	Web調査による計画・非計画購買率の推定精度の改良
礪山 麻衣	東京大学大学院 学際情報学府 博士後期課程	冷戦期日本の学生に対する米国アジア財団の広報外交
大伴 宗弘 他1名	一橋大学大学院 経営管理研究科 博士課程修了	消費国効果 (Country of Reputation Effects) ～日米における相手志向と製品志向の比較～
彭 永成	京都大学大学院 教育学研究科 博士後期課程	ブライダル広告メディアの比較研究 ～「ゼクシィnet」と雑誌『ゼクシィ』を例に～
宮下 佳子	筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 博士後期課程	食品ロス削減に資するマーケティング・コミュニケーション

# 2023年度研究助成 募集のお知らせ

吉田秀雄記念事業財団では、2023年度研究助成の募集を開始します。広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーション等の研究を対象に審査の上、助成金を給付します。併せて助成対象者が一定の枠内で利用できる消費者調査を提供します。提出された研究成果の中から優れた研究に「助成研究吉田秀雄賞」を授与します。応募の締切は、2023年1月10日です。

## 1.研究助成の目的

“広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーション等”に関する研究助成を通じて、その理論・技術および知識・情報の普及・発展を図り、もって学術・文化・経済の持続的発展および一般消費者の利益の増進に資することを目的としています。

## 2.助成対象者・助成金額・件数

上記分野の研究に携わる研究者で、助成を受ける期間中、大学に所属する者。

### (1) 常勤研究者の部

[対象者] 大学に在職する助教以上の常勤研究者(個人またはグループ研究)

[助成金額] 単年研究300万円以内／件  
継続研究400万円以内／件

[件数] 10件程度

### (2) 大学院生の部

[対象者] 博士後期課程に在籍する大学院生(個人またはグループ研究)

[助成金額] 単年研究50万円以内／件  
継続研究60万円以内／件

[件数] 10件程度

## 3.研究課題

### (1) 自由課題(上記分野に関連する研究課題を自由に設定)

## (2) 指定課題

- ①消費者との効果的なコミュニケーションを行う方法に関する研究
- ②広告・コミュニケーション研究やマーケティング研究の新たな方法論の開発につながる他領域における関連研究
- ③パンデミックがもたらしたインパクトに関する研究

## 4.研究期間

(1) 単年研究…1カ年以内 (2) 継続研究…2カ年以内

## 5.研究支援のための消費者調査

当財団では、助成対象者が利用できる消費者調査を実施します。

## 6.選考方法

13名の選考委員により選考の上、2023年3月下旬開催の当財団理事会で決定します。

## 7.結果の発表

2023年4月上旬に応募者あて個別に採否を通知します。

## 8.研究成果の報告

常勤研究者の部では3万字程度以上、大学院生の部では2万字程度以上の研究成果を期限までに提出。

## 9.応募手続き

### (1) 応募方法

当財団の研究助成システムに登録の上、マイページからお申し込みください。詳細は当財団ホームページで確認いただけます。

### (2) 応募期間

2022年11月1日(火)～2023年1月10日(火)

### (3) 応募先・問い合わせ先

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団

## 10.助成研究吉田秀雄賞

優れた研究には選考委員会の審査により「助成研究吉田秀雄賞」が授与されます。

## Editor's Note

感動的な光景が写真に納まらず、旅行で360度カメラを利用している。動画も視点を自由に変えられ全天周での再現が素晴らしい。知人にも光景や感動を共有でき、とても驚かされる。容易ではないだろうが、メタバースでの新体験を大いに期待したい。 (傾)

自分のパソコンから初めてメタバースに挑戦。いろんなアバターたちと東の間の時間を共有しました。次にVRヘッドセットでトライしたところ、その没入感の圧倒的な違いに驚きました。ますます身近な存在になっていくメタバースの今後が楽しみです。 (葡萄)

メディアはここではないどこかに連れてってくれます。メタバースがどのような豊饒な世界に誘ってくれるのか想像もつきませんが、インパクトの大きさゆえに人々がより生きやすく、人生の充実に資するような発展を遂げてくれるよう願っています。(ひろた)